

# 美術科の移行措置について

## ◇はじめに…移行措置の必要性

文部科学省は、「小・中学校学習指導要領の改訂に伴う平成21年度からの移行措置案」において、平成21年度から23年度までの移行期間中の中学校美術科の指導について、その全部又は一部について新学習指導要領によることができるとしています。

新しい学習指導要領は、教科目標の実現を図るために、「発想や構想の能力」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」など各学年で育成する資質・能力をもとに内容を整理し直し、領域主義的、作品主義的な授業の改善を図っていくとするものです。これまでの学習指導要領が目指してきたことを大切にしながら、教科指導の目的と手段の明確化を行ったものであり、後述するように、いくつかのポイントがありますが、全体として極端な違いがあるわけではありません。したがって、これまで行ってきた題材や年間計画を、新学習指導要領の視点で見直しながらスムーズ移行を図っていくことは、現行学習指導要領に基づく現在の指導を改善していくことにも結びつくものと考えられます。

以下に示すのは、移行措置のポイントを新学習指導要領の特徴に基づいて3つに整理したものです。

## ◇美術に関する生徒の資質や能力を育てることが目的として明確化されました。

例えば、現行中学校美術科学習指導要領における第1学年のA表現(1)の内容を見ると、「スケッチすること」「主題を発想すること」「構想を練ること」「形や色彩の表し方、ものの見方や形態の表し方、材料や用具の生かし方などの基礎的技術を身に付けること」「美しく生き生きと表現すること」など絵や彫刻などに表す活動を通して生徒に身に付けてほしい能力に関わる経験が並記されています。しかし、学校現場の実情を見ると、絵や彫刻などに表す活動事態が目的化され、これらのことを通して各学年で育成する資質・能力への視点が曖昧になってしまっているケースが散見されるという事態もありました。

そのため、平成20年改訂学習指導要領では、「絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して技能に関する次の事項を指導する。」というように指導の目的を明示し、これに続けて指導事項を示すことによって、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して美術に関する生徒の資質や能力を育てる」という基本理念を改めて共有できるようにしています。各校においては、現行の年間計画やそこに配列される各題材が、生徒の学習過程における発想や構想を引き出すものであるか、創造的な技能を獲得したり、鑑賞の能力を発揮したりできる条件を備えたものであるかどうかを確かめながら、生徒の資質・能力を伸ばすという視点から、三年間を通じてバランスのとれたカリキュラムを練り上げていく必要があります。

## ◇美術科のあらゆる学習活動を通して指導する〔共通事項〕が示されました。

小学校低、中、高学年と中学校という発達段階に応じて示された〔共通事項〕は、図画工作科や美術科の学習に欠くことのできないエッセンスであり、義務教育9年間に配列された題材の適切性を吟味する有効な視点として考えることもできます。各校においては、現行の題材を実施する際、そこに繰り上げられる表現や鑑賞の活動が、「形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解すること」や「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」という視点にかなったものであるかどうかを吟味しながら、生徒の思考・判断・表現の場を提供することで、指導と評価の適切性を高めていくことができるでしょう。例えば、A表現(1)の題材として記憶をもとに絵を描く活動の指導にあたって、単に「心に残る情景を描こう」というだけでなく、「そのとき感じた雰囲気や季節感を大切に心に残る情景を描こう」という踏み込んだとらえ方を進めることによって、形や色彩がもたらす感情に対する意識を喚起するなど、生徒の見方や感じ方を深めていくことが大切になってきます。

## ◇教科目標に「美術文化についての理解を深める」という視点が加わりました。

教科目標に「美術文化についての理解を深め」という文言が追加されたことは、教育基本法に示された教育の目標に「伝統や文化を尊重する態度」が明示されたことなどに連動するものですが、今後は、「B鑑賞」の学習の全体的な充実を図る中で、このことも含めた鑑賞の能力の伸長を図ることが大切になってきます。

今回の学習指導要領では、鑑賞の活動を通して生徒自らが意味や価値をつくり出す創造的鑑賞と、我が国の美術や文化に関する学習が重視され、第1学年では「思いや考えを説明し合う学習」や「美術文化に対する関心を高める学習」、第2学年及び第3学年には、「自分の価値意識をもって批評し合う学習」や「美術文化の継承と創造への関心を高める学習」などが指導内容として示されています。

また、新学習指導要領における鑑賞の内容に関しては、総則編に示された言語活動の充実や、美術科の教科目標に示された重点としての美術文化に関する学習の他、自然や身近な環境に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解する学習が重視されています。例えば、現行の「やさしさのデザイン」や「エコ・デザイン」などについても、鑑賞題材としての一層の充実が求められるところです。

各校においては、A表現との関連を図りつつ、三年間を通じて意図的計画的に鑑賞の機会を十分に保証し、生徒の鑑賞の能力を高めていく実践を積み重ねることが大切になってきます。

#### ◇指導計画の作成と内容の取扱いに関すること

3つのポイントにしたがって、現行の年間指導計画や題材を見直し、指導と評価の工夫・改善を進めていくには、各校の実状に応じて中学校3年間を見直し、バランスのとれた指導計画を策定していくことが大切です。

次に示すのは、新学習指導要領に示された「指導計画の作成と内容の取扱い」をもとに今後、指導計画策定に際して配慮すべき事項をまとめたものです。

#### ・各学年の内容の「A表現」と「B鑑賞」の相互の関連を図ります。

例えば、鑑賞題材において「作者の意図や心情について考える学習」は、表現題材において「主題を生み出す力」を高めることとの深い関係があります。一つの題材の中での相互の関連と同時に、題材と題材の間の関連も考えることで、生徒の学習を一層充実したものにできます。

#### ・「発想や構想に関する項目」と「創造的な技能に関する項目」を関連付けます。

絵や彫刻や、デザインや工芸に表すことなどの造形活動では、発想したり構想したりする力と、それらを実現するための創造的な技能とが、相互に働き合うようにさせることで、生徒の学習を豊かなものに練り上げることができます。三つのポイントの一つ目に示した生徒の資質・能力を引き出し、伸ばしていく上で、A表現(1)及び(2)と(3)を関連づけることは欠くことの出来ない条件であるといえます。

#### ・中学校3年間を通して描く活動とつくる活動のバランスのとれた指導計画を立てます。

中学校1年生に対しては、学習指導要領の「第1学年の内容」を45単位時間という時数の中で全て取り扱わなければならないため、自ずと題材の密度は高くなります。一つ一つの題材にあてる時間配分や年間を通じた題材配列を工夫し、描く活動とつくる活動を適切に構成する必要があります。

一方、「第2学年及び第3学年の内容」に示されたことは、学習の質の向上を図るために、一つの題材に時間をかけて取り組めるようにする必要もあり、中学校2、3年生を通じた2年間をかけて取り扱いますが、その中で教育内容の調和を図る手立てとして、次のようなルールがあります。

- ①2学年、3学年の各学年で、「絵や彫刻」と「デザインや工芸」を必ず行います。
- ②2学年、3学年の各学年で、描く活動とつくる活動を必ず1回は行います。
- ③「絵や彫刻」及び「デザインや工芸」を通じた発想や構想に関する指導と、発想や構想を基にした創造的な技能に関する指導を関連づけながら、2学年から3学年の2年間を通じて、描く活動とつくる活動をいずれも扱うようにします。

表1、表2は、①～③のルールに基づいて、3年間の学習内容のバランスをとるための指導計画の作成例です。

表1：「A表現」の指導計画の作成例Ⅰ

学年	A表現	(1)絵や彫刻に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的技能的描く活動		(2)デザインや工芸に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的技能的描く活動	
		描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年		○	○	○	○
第2学年		○			○
第3学年			○	○	

表2：「A表現」の指導計画の作成例Ⅱ

学年	A表現	(1)絵や彫刻に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的技能的描く活動		(2)デザインや工芸に表すことによる発想や構想の指導+(3)創造的技能的描く活動	
		描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第1学年		○	○	○	○
第2学年			○	○	
第3学年		○			○

#### ・「B鑑賞」の授業時数を十分に確保します。

各校においては、表現活動との関連を考えて鑑賞の授業を位置付けたり、独立した鑑賞の授業を適切に設けたりするなど、各学年の鑑賞の目標を実現するのに必要な授業時数をしっかり確保することが大切です。

#### ・「A表現」と「B鑑賞」を通じて〔共通事項〕が働くように題材を設定します。

三つのポイントの二つ目に示したように、生徒が、〔共通事項〕を十分に活用できる場面を意図的に計画的に設けることで、教科としての美術の授業構造をしっかりとさせることができます。

#### ◇おわりに

この移行措置資料は、新しい学習指導要領の視点を基に、現行の指導計画や題材をどのように捉え直していくかを例示したものです。それぞれの学校で、今行われている美術科の授業を、生徒たちにとって一層楽しく充実したものとする情報としてご活用いただければ幸いです。

# 美術1 「自由な心で」

新学習指導要領の移行措置に対応した題材内容資料

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	表紙・裏表紙 自由な心で	(適宜)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しいまなざしで子どもをとらえた作品を通して、表現することの楽しさや、素晴らしさを感じ取る。</li> <li>・作者の思いや意図によって、様々な表現方法があることを知り、自分らしい表現について考える。</li> </ul>	同作品の資料や関連する作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	作品に関心を持ち、鑑賞する楽しさを感じながら、作品を理解し自分なりに味わおうとする。		イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
鑑賞 (オリエ ンテー ション)	2・3 澄んだ目と 心で	1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の活動の基本である発見や感動の大切さを再確認し、美術への興味・関心・意欲を高める。</li> <li>・ホーマーの作品の鑑賞を通して、作者の個性をつかみ、主題がどのように感じられるかを味わうとともに、表現されている内容などについて発表し合う。</li> </ul>	関連するホーマーの作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	「見て感じ取る」という美術の活動の基本を再確認した後、美術に対する興味・関心・意欲を新たに高める。	B (1) ア	イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
表現 (創造への とびら)	4・5・6 つくり出す 喜び	2 ～ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然の中にあるいろいろな事物に触れたり、普段見慣れている風景を改めて見つめ直したりすることを通して、新鮮な感動や発見を得る。</li> <li>・創造へのきっかけをつかみ、その感動を話し合いながら平易な方法で作品化する。</li> </ul>	木の枝 葉 土 接着剤 ひも カメラ 画用紙 トレーシ ングペー パー 色鉛筆 パステル 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	自らの発見や感動を求めて、生き生きと活動しようとする。	A (1) ア、イ A (3) ア B (1) ア	イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	何に感動し、何を発見したか、感じ取ったものからイメージし表現へと展開する。		
					創造的な技能	発見や感動したことなど感じ取った喜びを的確に伝えられるような、表現の工夫を行う。		
					鑑賞の能力	鑑賞し、話し合いながらお互いの発見や感動の喜びを尊重し共有する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現・鑑賞 (創造へのとびら)	7・8・9 色との出会い	2 ～ 4	・自然や生活に息づく色、造形作品に生かされる色彩のよさや美しさを発見しようとする活動を通して、その性質や感情への影響について理解し、効果を工夫して用いる。	色紙・セロハンなどの材料 色鉛筆・水彩絵の具・ポスターカラーなどの描画材 コンピュータなど	美術への関心・意欲・態度	身の回りの色や造形作品の色に興味をもち、色の性質や感情を理解しようとする。	A (1) ア A (3) ア B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	色に興味をもち、色の性質や感情、色の組み合わせなどから自らの学習目標や表現のテーマをもつ。		
					創造的な技能	色の三属性や、色から感じ取ることのできる感情や性質などを体験的に理解し、自らの主題にそって用いる。		
					鑑賞の能力	生活に息づく色彩や、伝統や文化を彩る色彩の魅力を味わい、そのよさや美しさ、用い方の工夫などに気づいたり、日本の特徴的な色彩について理解したりすることができる。		
表現 絵・彫刻	10・11 スケッチの 楽しみ	2 ～ 4 (毎時間実施する場合もある)	・しっかりと対象を観察することを通して、よさや美しさを発見しようとする気持ちを大切にすること。 ・ものの見方や感じ方を深め、対象の形や色彩の特徴をとらえて自分らしく表現するなどしてスケッチに親しむ。	画用紙 鉛筆 色鉛筆 パステル コンテ 墨 各種ペン 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさなどを感じ取る喜びを味わい、スケッチに親しんでいこうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア B (1) ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	ものの見方・感じ方を深め、表現方法を工夫して自分なりの発想を豊かにする。		
					創造的な技能	形や色彩の特徴や美しさなどをとらえ、自分の主題にそった方法でスケッチする。		
					鑑賞の能力	スケッチに見られるよさや美しさ、表現の工夫やその価値について見方を広げ、鑑賞し合う。		
表現 絵・彫刻	12・13 見て、感じて	4 ～ 6	・対象を観察することを通して得た感動や思い等を、対象の描写を大切に絵などで表現する。 ・いろいろな作品を鑑賞することを通して、自らの価値観を大切に、それに応じた形のデフォルメや色彩の使用に幅と柔軟性を持たせる工夫を試みる。	画用紙 鉛筆 色鉛筆 パステル 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	心ひかれる対象を選び、素直な思いを基に、自らが感じた思いから、主題をもって表現しようとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	使用する描画材等を適切に選び、自分の思いに合った表現を発想し構想を練る。		
					創造的な技能	表現を工夫し、形や色に自らの思いを基に設定した主題を反映させ表現する。		
					鑑賞の能力	対象をよく見て感じ取ったことを、わかりやすく他者に伝え、また他者の思いや表現を味わう。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・ 彫刻	14・15 心に残る情景	4 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で印象に残っている場面を思い出し、自らの価値観を大切にその時の雰囲気や季節感などを、見る人に伝わるように豊かに発想する。</li> <li>生命感や情感などを大切に生きて生きとしした表現の構想を練り、意図に応じて表現方法を工夫して表す。</li> </ul>	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 板 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	日々の生活の中で出会った自然やできごとのよさや美しさに関心をもち、試行錯誤しながら表現方法などを工夫し、活動に取り組む。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	自然の美しさや感動した記憶を基に、自らの主題を絵や彫刻で構成し、生き生きとした表現の構想を練る。		
					創造的な技能	表したい場面の特徴や美しさなどをとらえ、自分なりの表現を大切に材料や用具を生かして表現する。		
					鑑賞の能力	お互いの作品を鑑賞し合い、いろいろな見方や感じ方、発想があることを味わい、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取る。		
表現 絵・ 彫刻	16・17 想像の世界へ	3 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩や物語などから想像したことをもとに自らの主題を設定し、創造的な構成を工夫して心豊かに表現する構想を練る。</li> <li>自分の表したい感じを大切に、多様な表現方法を工夫することを通して絵や彫刻などに表現する。</li> </ul>	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 板 加工粘土 針金 ひも 塗料 など	美術への関心・意欲・態度	夢やイメージをもって楽しく絵や彫刻などの活動に取り組み、創意工夫する。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	詩や物語などから、想像力を働かせて豊かに主題を発想し、形や色で美しく表現する。		
					創造的な技能	表現意図に応じた材料や用具の生かし方など、基礎的技術を身につけて表現する。		
					鑑賞の能力	多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り、話し合いながら味わう。自分の制作した作品の意図や思いを言葉で表す。		
表現 絵・ 彫刻	18・19 版のよさを 生かして	4 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や身近なものを深く観察し、よさや美しさなどを感じ取ったり、発見したりして、版の特色や効果などを考え、自らの主題にそった表現方法を工夫して表す。</li> </ul>	画用紙 カーボン紙 版画用紙 地塗剤 葉 接着剤 布 版木 版画インク 金属板 版画プレス機 など	美術への関心・意欲・態度	版による多様な表現のよさや美しさを感じ取り、創意工夫し、新しい表し方を楽しもうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	自然や身近なものを新鮮な見方や感覚で観察し、感性や造形感覚などを働かせて構想を練る。		
					創造的な技能	意図に応じた材料や用具の生かし方など、基礎的技術を身につけて、自らの主題を表そうと工夫して表現する。		
					鑑賞の能力	版による表現の特色や、作品の見方や多様な表現方法について理解し、そのよさや美しさを楽しむ。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・彫刻	20・21 立体に表す 楽しみ	4 〜 6	・身近な自然物や人工物から立体としての面白さや美しさを感じ取り、感じたものを作品として表すことを通して、立体作品をつくる楽しさを理解する。	軟石 加工粘土 粘土べら 木 彫刻刀 など	美術への関心・意欲・態度	立体に表す楽しさを味わいながら、進んで表そうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 イ形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	材料のもつ特性に親しみながら、見通しをもって大切にしたい形を構想する。		
					創造的な技能	材料のもつ特性を生かしながら、立体表現ならではのよさや美しさを表す。		
					鑑賞の能力	立体作品の多様な表現のよさや美しさを感じ取り、いろいろな表し方を味わう。自分の制作した作品の意図や思いを言葉で表す。		
表現 デザイン・工芸	22・23 自然の形や 色を生かして	4 〜 6	・身近な自然材の特徴や美しさを感じ取りながら、その形や色、質感などを生かした造形活動を楽しんだり、美しい構成を発見したりする。	木 竹 石 草 木の葉 画用紙 コンピュータ など	美術への関心・意欲・態度	身近な自然材に触れ、感性や美的感覚を働かせ、そのよさや美しさを感じ取りながら造形活動に親しむ。	A (2) ア A (3) ア, イ B (1) ア	
					発想や構想の能力	材料のもつ性質や特質を考え、美的感覚を働かせて作品を発想し、表現の構想を練る。		
					創造的な技能	材料から発見した造形要素を生かして、自分なりの方法を工夫しながら、見通しをもってつくったり、構成したりする。		
					鑑賞の能力	身近な自然材のよさや美しさを感じ取ったり、それらを用いた表現のよさを味わったりして、感じ取ったことや考えたことを説明する。		
表現 デザイン・工芸	24・25 土と炎の 出会い  (題材例：ランプシェードをつくらう)	4 〜 8	・陶土の感触を楽しみながら焼き物の持つ造形的な美しさやよさを味わい、成形から焼成までの制作工程を理解し制作する。 ・生活を豊かに演出できるように、使えるもの・飾るものとしてのランプシェードの特性を考え、光の効果を生かしたデザインを考えてつくる。	陶土 粘土板 粘土べら ストロー 水入れ 瓶 照明器具 など	美術への関心・意欲・態度	身近にある焼き物のよさや美しさについて関心をもつとともに、制作の順序を考えながら、見通しをもって取り組もうとする。	A (2) ア, ウ A (3) イ B (1) ア	
					発想や構想の能力	焼き物のもつ造形的なよさや美しさ、照明器具としての機能などを考え、光の効果を生かしたデザインの構想を練る。		
					創造的な技能	焼き物の制作工程（成形、加飾、乾燥、素焼き、施釉、本焼き）や成形方法（板づくり）の特性を理解し、イメージに合った作品を制作する。		
					鑑賞の能力	自分や友だちの作品から、工芸品としての美しさや、発想や表現のよさ、感じ取ったことや考えたことなどを説明する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 デザイン・ 工芸	26・27 遊び心の かたち	4 ～ 8	・ユーモアに富んだ遊び心を生かし、心を和ませるユニークな飾りや楽しく遊べるものを、アイデアを基に材料の特性を生かしてつくる。	木 針金 紙 皮革 廃材 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	ユーモアに富んだ遊び心について理解し、表現に生かす工夫を考えて制作する。	A (2) ア, イ, ウ A (3) ア, イ B (1) ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	遊び心を生かし、飾ったり遊んだりする機能を理解しながら使用する人の立場に立って発想し、表現の構想を練る。		
					創造的な技能	制作するものに適した加工技術や、材料や用具の特性を生かしながら、見通しをもって制作する。		
					鑑賞の能力	作品の楽しさやよさを味わいながら、心を和ませる工夫について、感じ取ったり考えたりしたことを説明する。		
表現 デザイン・ 工芸	28・29 動く絵の 楽しさ  (題材例：アニメーションの世界)	3 ～ 6	・アニメーションの原理を理解し、平面（絵）や立体の形・色の変化や動きの面白さを生かした表現をする。	コンピュータ デジタルカメラ 水彩絵の具 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	アニメーションに関心をもち、楽しく生き生きと表現する。	A (2) ア A (3) ア, イ B (1) ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	アニメーションの原理を理解し、場面の変化や一定の時間の中での形や色の変化の面白さを発想したり、表現の構想を練ったりする。		
					創造的な技能	自分のイメージに合った材料やメディアを選び、全体の流れや動きの変化を考え、見通しをもって作品をつくる。		
					鑑賞の能力	他の人の作品を鑑賞し、アニメーションとしての表現の工夫や特徴などについて、感じ取ったり考えたりしたことを説明する。		
表現 デザイン・ 工芸	30・31 文字を生かした デザイン	3 ～ 4	・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、目的に応じて形や色を工夫し、楽しい文字、美しい文字をデザインする。	色紙やセロハンなどの材料 色鉛筆・水彩絵の具・ポスターカラーなどの描画材 コンピュータ など	美術への関心・意欲・態度	家庭や学校での日常生活を演出したり、建築や都市空間に生かされる文字のデザインの社会的役割や表現の効果や美しさについて関心をもったりする。	A (2) ア, イ, ウ A (3) ア B (1) ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	文字の特徴を生かして、楽しく美しい効果的なデザインを発想したり、表現の構想を練ったりする。		
					創造的な技能	形や色を工夫し、内容を伝えたり、印象づけたりするための文字をデザインする。		
					鑑賞の能力	デザインされた文字のよさや美しさを味わい、目的との適合性や、伝えるための工夫などについて感じ取ったり考えたりしたことを説明する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	32・33 絵本は小さな 美術館	1 ＼ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な絵本を造形的な視点から見つめ直し、絵本に備わっている特性やイラストレーションの豊かな表現を発見することができる。</li> <li>絵本のイラストレーションから絵本独自の表現を味わうとともに、作者の造形的工夫やその効果について考えることができる。</li> </ul>	教科書に取り上げた絵本の実物や教師が推薦する絵本など	美術への関心・意欲・態度	絵本のもつ造形的魅力や形式的特性に気づくことを通して、絵本とそのイラストレーションを楽しみながら味わい、その表現形式や社会的役割に関心をもつ。	B(1)ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	絵本に備わっている形式的特性のいくつかを発見したり、絵本のイラストレーションから造形的工夫や効果を見抜いたりするとともに、絵本の豊かな表現を味わい、感じ取ったことや考えたことなどを説明する。		
鑑賞	34・35 生活と デザイン	1 ＼ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活用品など、身近なもののデザインについて親しみ、そのよさや美しさを味わうとともに、生活の中から生まれる願いや期待、デザインの意図や工夫などを感じ取る。</li> <li>人々が楽しく心豊かに生活することのできるデザインとはどのようなものか考え、美と機能性との関わりについて気づき、その働きについて理解する。</li> </ul>	参考資料 身近な文房具など	美術への関心・意欲・態度	生活用品など、身近なもののデザインについて親しみ、そのよさや美しさなどを味わい、感じたことを発表し合うなどして交流する。	B(1)ア	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	生活の中から生まれる作者や生産者の願いや期待、デザインの意図や工夫などを感じ取る。 機能性や安全性、環境保全への配慮など、デザインに課せられた課題について理解し、問題意識をもって見る。 人々が楽しく心豊かに生活することのできるデザインとはどのようなものか、考えたことを説明する。		
鑑賞	36・37 見ることと 描くこと	1 ＼ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>形、色、表現方法などを基に作品の特徴を自分なりの視点をもって鑑賞し、作者が対象をどのように観察し、表現したかを探る。</li> <li>対象に向かう作者の姿勢や表現上の特色などを感じ取りながら、それぞれの作品の魅力を楽しむ。</li> </ul>	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクト ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	観察を基にした絵画表現の多様性に気づき、それぞれの特色に関心を抱く。	B(1)ア	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	形、色、表現方法などを基に、対象に向かう作者の姿勢や表現上の特色などを感じ取りながら、それぞれの作品の魅力を楽しむことができる。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	38・39 のこされた 造形	1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類が遺した造形物を鑑賞し、そこに込められた思いや願いを想像しながら、人間の社会と造形の関わりについて話し合い、その意味を探りながら美術の始まりを考える。</li> <li>遠い過去の造形と現代に息づく伝統文化とのつながりについて考える。</li> </ul>	参考資料 図版 スライド など	美術への関心・意欲・態度	遠い過去から現代に続く、大きな歴史に思いをはせ、美術の始まりについて関心をもつ。	B(1)イ	ア イ 形や色彩、 材料、光 などの性 質や、そ れらがも たらす感 情を理 解するこ と。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	過去の造形物に関心をもち、制作した人々の思いや願いを想像することができ、人間と造形の関わりについての意味を考えることができる。		

# 美術2・3上「美を求めて」 新学習指導要領の移行措置に対応した題材内容資料

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	表紙・裏表紙 美を求めて	(適宜)	・日常の景色や自然環境の中に美しさを見だし、それを表現するために独自の方法を追求した作品について理解を深める。そして自らの表現において自分らしく美しい表現を求める態度を身につける。	同作品の資料や関連する作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	作品や作者に興味をもち、同じモチーフ（植物）からも様々な表現方法で作品が生まれることを知り、いろいろな表現を味わおうとする。	B（1）ア、イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	自然をテーマにした作品を通して、自然の美しさを再認識するとともに、作品のよさを味わいながら、作者が表そうとしたものを感じ取る。		
鑑賞	2・3 自然の恵みと 造形	1 ＼ 2	・尾形光琳の「紅白梅図屏風」を通して、作品の背景にある日本的な自然観や作品に込められた作者の思いを探る。 ・「紅白梅図屏風」に代表される日本的なテーマ設定や装飾性豊かな造形美、屏風絵という形式の独自性を発見する。	関連する光琳や琳派の屏風絵作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	光琳の「紅白梅図屏風」に見られるテーマ設定や独自の装飾的表現などに興味を抱き、日本絵画の造形美に対する関心をもつ。	B（1）ア、イ、ウ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	作品から自然観や作者の思いを感じ取るとともに、気づいた点を発表し合うなどして、日本的な造形表現の特色や屏風絵という伝統的な美術文化の形式の面白さなどについての理解を深める。		
表現 絵・ 彫刻	4・5 新鮮な見方で	3 ＼ 6	・見方を変えて、見慣れた場所や風景の思いがけないよさや美しさを発見し、創造的な発想・構想をして、自分なりの表現を工夫して表す。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 接着剤 写真 コンピュータ プリンタ など	美術への関心・意欲・態度	見方を変えることで、思いがけない美しさや面白さがあることに気づき、自分の表現方法を模索し試行錯誤を重ねて制作に取り組もうとする。	A（1）ア、イ A（3）ア、イ B（1）ア、イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力	自分らしい表し方を工夫し、新鮮なもの見方で発想し、見通しをもって構想をする。		
					創造的な技能	見方を変えたり自分なりに想像したりしたことを、遠近法や色彩の工夫をしたり、映像メディア等の特質を生かしたりして表現する。		
					鑑賞の能力	感性や想像力を働かせ、作品について話し合い、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取る。また、自分の制作した作品の意図や思いを言葉で表す。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・彫刻	6・7 息づく空間	4 ～ 6	・奥行きや広がり、空気感をその場で感じ、温度、湿度、風の揺らぎや日差し心地よさ等、様々な感覚を大切に、五感で感じ取ったものを素直に、また遠近法などの表現も考えながら自分なりに絵や彫刻に表す。	画用紙 鉛筆 コンテ カラーインク 水彩絵の具 加工粘土 粘土べら など	美術への関心・意欲・態度	身近な風景や室内を注意深く観察し、空間の広がりや深さを自分なりの視点を大切に、感じ取ろうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア イ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	空間で感じ取った感覚を大切に発想し、見通しをもって表現を構想する。		
					創造的な技能	見て感じた空間を自分の主題にそって表現の中に表す。		
					鑑賞の能力	自分の作品のよさや工夫した点を的確に説明し、また他者の作品を批評し合う。		
表現 絵・彫刻	8・9 多様な表現を 求めて	4 ～ 6	・美術の表現の多様さや独特な表現形式・方法に関心を深め、自らの主題を元に材料の特性などを生かして独自の世界を表現する。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 板材 瓶 地塗り剤 金属板 接着剤 など	美術への関心・意欲・態度	多様な表現形式・方法に関心をもち、自らの表し方を工夫して取り組もうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア イ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	既成の支持体の形状にとらわれず自由に発想し、創造的な表現の構想をする。		
					創造的な技能	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫して、自らの主題にそった表現をする。		
					鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、自分の価値意識を大切にしながら作品のよさや美しさを感じ取り、批評し合う。		
表現 絵・彫刻	10・11 超現実的な 世界	4 ～ 6	・自ら設定した主題を基に、夢や想像したことなど心の世界を、シュルレアリスムの手法を使って創造的に表す。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 写真 コンピュータ など	美術への関心・意欲・態度	色々な表現方法の中から自分らしい表現を工夫し、よりよい作品を制作しようとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア イ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	夢や想像など心の中を表現しようと発想し、自分の主題にそった表し方を工夫し、見通しをもって構想をする。		
					創造的な技能	多様な表現方法や表現材料を工夫し、自らの主題を創造的に表す。		
					鑑賞の能力	作者の心情や意図、表現の工夫など、感じ取ったことを批評し合いながら味わう。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・彫刻	12・13 楽しく効果的 に表そう	3 ～ 6	・表したい内容を効果的に伝えるためにはどのような表現を工夫すればよいかを考え、楽しいアイデアや効果的な方法で表現したり、身近な生活に生かしたりする。	画用紙 色鉛筆 サインペン 各種ペン 水彩絵の具 コンピュータ 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	楽しい発想や構想を練り、よりよい表現をしようと試行錯誤しながら工夫する。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩、 材料、光などの 性質や、それら がもたらす感情 を理解すること。
					発想や構想の能力	見る人が印象的で楽しく感じるような発想をし、工夫しながら構想を練る。		
					創造的な技能	漫画やイラストレーションなど独自の表現方法を理解し、表したい内容を自分なりの楽しい表現方法で制作する。		
					鑑賞の能力	作者がどのようなアイデアで、効果的に自分の思いを伝えようとしたのか話し合い、色々な作品のよさや楽しさを味わう。		
表現 絵・彫刻	14・15 身近な人を見つめて	4 ～ 6	・身近な人を愛のあるまなざしで観察し、性格や人柄、その人への思いなどを自分らしい方法で表現する。 ・独自の表現を工夫しながら、美しい表現について追求する。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 加工粘土 粘土べら など	美術への関心・意欲・態度	身近な人間を見つめ、自分らしい表現の仕方を創意工夫しながら、その人への気持ちを前向きに表現しようとする。自分の作品に愛着をもち大切に作る。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩、 材料、光などの 性質や、それら がもたらす感情 を理解すること。
					発想や構想の能力	対象の人物の内面的な部分を感じ取り、作品の主題を発想し、見通しをもって構想を練る。		
					創造的な技能	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫し、様々な表現形式や構成、技法などのよさを生かして主題に迫る表現をする。		
					鑑賞の能力	作者の心情や表現への意図、創造的な表現の工夫などを感じ取る。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 (複合)	16・17 映像表現の 広がり (題材例：デジタル コラージュ・夢の 世界)	2 ～ 4	・写真などの映像イメージを使用した表現の可能性に気づき、これらをコンピュータ上でコラージュ的に合成したりすることで得られる新鮮な効果を生かして表現する。	写真素材 コンピュータ グラフィック ソフト カラプリンタ など	美術への関心・意欲・態度	写真などの映像の効果を試しながら、自分の内面にある思いや夢などの表現に取り組もうとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力	多くの写真を見たり、自分の内面を見つめたりすることで、夢のような世界を発想し、画面の構想を練る。		
					創造的な技能	映像メディアの特性を生かし、美しい形態や色彩を効果的に配置して、自らの表現を深める。		
					鑑賞の能力	映像メディアの特性や表現の広がりについて話し合い、映像メディア表現の可能性を味わう。		
表現 デザイン・工芸	18・19 光の表現・ 光の演出	4 ～ 8	・身の回りにある様々な光の多様性に気づき、そのよさや美しさを生かして表現したり、身近な空間を光によって演出したりすることを通して、造形要素としての光の意味を考え、目的に合わせて効果的に用いる。	電球 ソケット コード 針金・和紙・ セロハン・そ の他身辺材 絵の具 ペンチ 木ねじ はさみ など	美術への関心・意欲・態度	太陽光、炎の光、人工照明など光の多様性に関心を持ち、生活や表現活動と光の関係について考えようとする。	A (2) ア, ウ A (3) ア B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力	光が人に与える感覚や、見る人が抱く感情、材料の特性などを生かし、目的に合った照明や光の演出の方法や効果などを総合的に考え、表現の構想を練る。		
					創造的な技能	表現意図に応じ、形や色、材料や用具の特性を生かし創造的に表現する。		
					鑑賞の能力	生活や表現活動に生かされた光の効果や美しさなどを感じ取り、その働きについて発表し合うなどして鑑賞を深める。		
表現 デザイン・工芸	20・21 手づくりの 楽しみ (題材例：コースタ ーをつくる)	4 ～ 8	・材料の特性を生かして、生活に潤いや彩りを与える生活用具をデザインし、手づくりのよさを生かしてつくる。 ・木材加工や金属加工など材料に応じて加工方法を工夫し、デザインから完成までの工程を理解し計画的に制作する。	木材 彫刻刀 アルミ板 銅網 真鍮網 銅線・真鍮 線各種 金づち 金切りばさみ 万能ばさみ ヤスリ各種 砂袋 糸のこぎり など	美術への関心・意欲・態度	身近で使うものをつくることに関心を持ち、完成までの手順を考え計画的に制作する。	A (2) ア, イ, ウ A (3) ア, イ B (1) ア	
					発想や構想の能力	手づくりの温かさを大切にして、材料の特性を生かしながら、使う人の立場を考えたデザインの構想を練る。		
					創造的な技能	材料に応じた加工方法を用い、安全で効果的な用具の使い方を工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、自分のイメージに合った表現方法で作品を制作する。		
					鑑賞の能力	自分や友だちの作品から、手づくりの温もりやよさなど、感じ取ったことを説明し合い、制作したものを大切に使用おうという気もちをもつ。また、伝統工芸の魅力に気づき、美術文化への関心を高める。		

イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。  
ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 デザイン・ 工芸	<b>22・23 だれもが快適 なデザイン</b>	4 ～ 6	・自然や我々の生活など、広い視点から私たちを取り巻く環境について興味をもち、様々な人の立場の違いを考え、誰もが快適に使えるものをデザインする。	画用紙 色鉛筆 水彩絵の具 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	自然や我々の生活など、広い視点から私たちを取り巻く環境について興味をもち、バリアフリーの意味やユニバーサルデザインの意味を理解するとともに、様々な人の立場からデザインについて考える。	A(2)ア、イ、ウ A(3)ア、イ B(1)ア、イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	日常生活や身近な環境、自然から課題を発見し、誰もが快適と思えるデザインについて考え、表現の構想を練る。		
					創造的な技能	使う人の気もちや立場を考えて、材料や加工方法などを工夫し創造的に表現する。		
					鑑賞の能力	アイデアや作品のよさを感じ取ったり、使う人の気もちや立場を考え作品を批評し合ったりして、鑑賞を深める。調査したことを図や写真、文章などにまとめて発表する。		
表現 デザイン・ 工芸	<b>24・25 伝えよう 大切なこと</b> (題材例：ポスター による伝達)	4 ～ 6	・伝えたいことや主張したい内容を、効果的に伝えるための表し方を工夫して、材料や用具、形、色彩、図柄などを総合的に考え、ポスターで表現する。	ポスターカ ラー デジタルカ メラ コンピュータ グラフィッ クソフト など	美術への関心・意欲・態度	伝えたいことや主張したい内容を、材料や用具、形、色彩、図柄などを総合的に考え、印象的に伝える工夫をする。	A(2)ア、イ、ウ A(3)ア、イ B(1)ア	
					発想や構想の能力	集めた資料などを基に、形、色彩、図柄などを工夫したアイデアスケッチを考え、効果的な表現の構想を練る。		
					創造的な技能	いろいろな材料を活用したり、表現意図に合う効果的な構成や色彩などを工夫したりすることで、目的に合った表現をする。		
					鑑賞の能力	作品のよさや美しさ、作者の主張したいことなど、独自の表現の工夫を感じ取ったり考えたりしたことなどを発表し、お互いの考えを共有する。		
鑑賞	<b>26・27 イメージを届 けるデザイン</b>	1 ～ 2	・身の回りにある書籍、カードなどにおける形や色彩、造形上の特徴などに関心をもち、グラフィックデザインの洗練された美しさを味わうとともに、見る人や、受け取る人の気もちを考えたデザインの工夫を探る。	参考資料 図版 スライド など	美術への関心・意欲・態度	身近な印刷物のデザインに関心をもち、材料や仕組みなどについて考え、作品を楽しもうとする。	B(1)ア	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	グラフィックデザインの魅力を味わい、見る人や受け取る人の楽しさを意識したデザインの効果について、考えたことを発表し合うなどして、友だちの考えを共有する。明治時代などの古い時代のデザインの工夫や良さに気づく。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	28・29 もう一つの目	1 ∩ 2	・撮影した人の思いや願い，あるいは感性などを感じ取りながら，表現の手段としての写真に関心をもち，その特性を生かした表現の工夫やよさについて理解するとともに，写真の見方を深め，その魅力を味わう。	参考資料 図版 関連する写真集 など	美術への関心・意欲・態度	撮影した人の思いや願い，あるいは感性などを感じ取りながら，表現の手段としての写真に関心をもち。	B(1)ア	イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	写真に込められた作者の意図や心情，写真の特性を生かした表現の工夫やよさなどを感じ取り，その魅力を味わう。		
鑑賞	30・31 現代に生きる 伝統 —工芸の美—	1 ∩ 2	・伝統工芸の多様性や独自性に対する理解を深める。 ・受け継がれてきた材料や技術に，独自の創意工夫を加えることにより生み出される伝統工芸の新たな魅力を味わう。	参考資料 図版 作品集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクト ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	伝統工芸の世界に目を向け，その独自の魅力に関心を抱くことから，新たな価値を積極的につくり出していこうとする気もちをもつ。	B(1)ア，ウ	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	作品に見られる形や色彩の工夫，材料の加工の方法などから，作者の創意や工夫を感じ取り，現代に生きる伝統工芸の魅力を味わう。		
鑑賞	32・33・34 日本絵画の 造形美	1 ∩ 2	・江戸時代中期に熟成した日本絵画の造形の特徴を代表的絵師の作品を通して理解し，形や色彩，技法の特徴などを手がかりにそれぞれの個性的な展開を味わう。 ・日本絵画の独自の表現と西洋流の手法を取り入れた表現とを比較し，それぞれのよさを味わい，日本絵画の特徴について説明を試みる。	代表的絵師たちの関連資料 手づくりのミニチュア 屏風 など	美術への関心・意欲・態度	江戸中期の絵画に見られる日本的な表現の特色や個性的な展開に興味をもち，西洋的表現の取り入れ方にも着目しようとする。	B(1)ア，イ，ウ	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	江戸中期の代表的絵師たちの個性や造形方法の違いを見分けたり，それぞれのよさを味わったりするとともに，モチーフや画面構成の特徴などについて考えを説明し合う。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	35・36・37 日本の美術と 世界	1 ～ 2	・日本の美術について、その時代や社会の変化、諸外国との交流に着目し、興味や関心をもって鑑賞し、日本の美術の概括的変遷や固有の特色などへの興味や関心を高め、文化と伝統などについて理解し、その見方や感じ方を深める。	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	鑑賞活動を通して日本の美術の概括的変遷や固有の特色などに興味や関心をもつ。	B(1)ア、ウ	イ 形や色彩 の 特徴 など を 基 に、 対 象 の イ メ ー ジ を と ら え る こ と。 ア 形 や 色 彩 、 材 料 、 光 な ど の 性 質 や 、 そ れ ら が も た ら ず 感 情 を 理 解 す る こ と。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	時代や社会の変化、諸外国との交流に着目して日本の美術を鑑賞し、その概括的変遷を理解する。 文化や伝統として受け継がれてきた、日本独自の美意識や創造的精神などについて理解する。		
鑑賞	38・39 北斎と遠近法	1 ～ 2	・異文化間の交流や影響関係などを確かめながら美術作品を鑑賞する。 ・北斎の空間表現と西洋画の遠近法の共通点や相違点を確かめ、それぞれの特色や魅力を味わう。	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	異文化間の交流や影響に関心をもち、美術作品を鑑賞しようとする。	B(1)ア、イ、ウ	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	北斎の空間表現と西洋絵画の遠近法のそれぞれの魅力を味わうとともに、共通点や相違点など、気づいたことを発表し合うなどして互いの考えを交流させ鑑賞を深める。		

# 美術2・3下「美術の広がり」 新学習指導要領の移行措置に対応した題材内容資料

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	表紙・裏表紙 美術の広がり	(適宜)	・美術作品としての建築に関心を持ち、造形的な美しさを感じ取るとともに、広く人類の歴史や生活の中における美術の意味について考え、生活と美術の関わりについて理解する。	同作品の資料や関連する作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	美術作品としての建築の鑑賞を通して、作品や作者、美術文化や歴史などに興味をもつ。	B (1) ア, ウ	イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
鑑賞 (オリエンテーション)	2・3 自然との共生	1 ～ 2	・作家の作品を通して、作家が個人の思想や感情の表現だけではなく、時代や社会、自然などについて問い直すメッセージを発信していることに気づき、環境と美術の関わりについて理解を深める。	参考資料 図版 作品集 ビデオ教材 など	美術への関心・意欲・態度	自然との関わりをテーマにした作家の作品の鑑賞を通して、美術と自然や社会との関わりについて考える。	B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力			
					鑑賞の能力	自然環境や社会環境と美術の関わりについて考え、作家の発想や思想、表現の工夫を感じ取り、考えたことを発表し合うなどして鑑賞を深める。		
表現 絵・彫刻	4・5 自分らしさを見つけて	4 ～ 10	・自分自身を素直に客観的に見つめ、肯定的な視点を大切に、自分自身を表現するための最もふさわしい方法や工夫を考えて表す。	画用紙 鉛筆 各種ペン 水彩絵の具 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	自分自身を客観的に見つめ、内面的なテーマを踏まえ、自分らしさを表すための表現を工夫しようとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力	自分自身を客観的に見つめ、内面的な価値を感じ取り、主題を発想して、スケッチなどを基に創造力を働かせ、豊かに構想する。		
					創造的な技能	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫し、自分自身を見つめ、感じ取ったことや心の世界などを素直に表現する。		
					鑑賞の能力	色々な作品のよさや楽しさを理解し、どのようなアイデアで、自分自身や内面を伝えようと工夫したのか発表し、お互いのよさを味わい感じ取る。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・ 彫刻	6・7 流れる時を とらえて	3 〜 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一瞬の動きや自然の現象（雲や光など）が、美術表現の重要なテーマになることを理解する。</li> <li>・変化していくモチーフをじっくりと観察し、自らの主題を設定し表現方法を工夫しながら生き生きと絵や彫刻に表す。</li> </ul>	画用紙 鉛筆 色鉛筆 コンテ 水彩絵の具 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	モチーフを見つけ出そうとする意欲をもち、それをじっくりと観察することから表現の主題を見つけようとする。	A（1）ア、イ A（3）ア、イ B（1）ア、イ	イ 形や色彩 の 特徴 など を 基 に、 対 象 の イ メ ー ジ を と ら え る こ と。 それ ら が も た ら す 感 情 を 理 解 す る こ と。
					発想や構想の能力	変化し続けるモチーフを観察し、その変化や動きの美しさから表したい主題を発想し、主題を表現する方法を構想する。		
					創造的な技能	動きや流れという流動性を、適切な表現材料と方法を用いて表す。		
					鑑賞の能力	自分及び他者の作品から流動性を感じ取り、各自の観察の深さや表現の工夫を理解する。他者と意見を交流し、自分一人では気づかなかった価値などに気づく。		
表現 絵・ 彫刻	8・9 主張する美術	4 〜 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分あるいは社会の問題を他者に伝えるための大きな力を、美術がもっていることを理解する。</li> <li>・自分が今関心のある問題（自己の内なる問題、社会や環境の様々な問題など）に対して、それをどのように自覚し、解決しようとするのか真剣に考え、自らの主題を基に美術表現を通して他者に的確に伝える。</li> </ul>	画用紙 鉛筆 色鉛筆 インク 水彩絵の具 加工粘土 板 針金 など	美術への関心・意欲・態度	自分あるいは社会の問題についてはっきりとした自分の意見をもち、美術の表現を通して他者に伝える意欲をもちようとする。	A（1）ア、イ A（3）ア、イ B（1）ア、イ	
					発想や構想の能力	自分の伝えたい問題やその主張を、話し合いなどの中から適切な方法と表現で発想し、表現へと構想する。		
					創造的な技能	話し合い、批評し合いながら自分の主張が的確に伝わるような方法を考え、制作する。		
					鑑賞の能力	自分の主張を作品を通して積極的に伝え、他者の主張についても理解する。		
表現 絵・ 彫刻	10・11 気持ちの形・ 思いの色	4 〜 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的表現とはどのようなものか、その考え方と表現のあり方を理解する。</li> <li>・形や色の単純化や省略、あるいはそれらの組み合わせが、表現の多様さや可能性を広げること理解する。</li> <li>・自分の心の世界が自由な方法によって表現できることを制作を通して理解する。</li> </ul>	画用紙 色鉛筆 コンテ カラーインク ペン 水彩絵の具 加工粘土 アクリル板 など	美術への関心・意欲・態度	抽象的表現を理解し、その豊かさや広がりを感じ取りながら取り組もうとする。	A（1）ア、イ A（3）ア、イ B（1）ア、イ	
					発想や構想の能力	形と色のもつ可能性について考え、自分の心の世界を形や色の単純化とその組み合わせとして発想し、表現へのイメージを基に構想を練る。		
					創造的な技能	抽象表現を理解し、表現の多様性や可能性を感じ取りながら自分の主題を表現しようと取り組む。		
					鑑賞の能力	自分の作品が表している内容や表現上の工夫について、自分の言葉で他者に説明し、他者の作品のよさを理解する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 絵・彫刻	12・13 環境と 響き合う造形	4 〜 6	・よく話し合い、様々な考え方を大切に にし、地球・自然・環境を愛し、大 切に考え、造形活動を地球上の営み の一つととらえ、環境と調和する立 体造形のアイデアを、自らの表現方 法を工夫して効果的に表す。	鉛筆 針金 クラフト用紙 加工粘土 着色塗料 (絵の具) コンピュータ デジタルカ メラ 参考資料 など	美術への関心・意欲・態度	環境と造形について関心を持ち、造形物が生活の中でど のような役割を果たしているのかを考える。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア イ 形や色彩 の 特徴 など を 基 に 、 対 象 の イ メ ー ジ を と ら え る こ と 。 そ れ ら が も た ら ず 感 情 を 理 解 す る こ と 。
					発想や構想の能力	公共空間、生活空間の意味を考え、その上で美術がどの ように関わっていけばよいかを考え、作品としてのアイ デアを発想し、表現への構想を練る。		
					創造的な技能	公共空間、生活空間の意味を考え、自分の経験や想像力 などを生かし、心地よい生活を送るための造形について、 自らの主題を基に図や模型で表す。		
					鑑賞の能力	公共空間がもつ豊かさや意味、その必要性について批評 し合い、考え、そこに置かれる造形物の創造的精神や有 効性を味わう。		
表現 デザイン・工芸	14・15 見え方の 不思議  (題材例：あり得な い世界)	3 〜 4	・図法や錯視の原理を理解し、現実には あり得ない不思議な空間や、面白 さのある視覚の世界を表現する。	画用紙 ケント紙 色鉛筆 サインペン 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	視覚の性質を応用した不思議な見え方に関心を持ち、図 法や錯視の原理を生かして表現する。	A (2) ア, イ A (3) ア B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力	基本的な原理と構造を基に想像力を働かせ、表したい場 面を発想し、形や色彩、図柄などの構成を考え表現の構 想を練る。		
					創造的な技能	細部の描き方や配色などを工夫することで、より効果的 な作品を制作する。		
					鑑賞の能力	図法や錯視の原理の生かし方などの工夫を感じ取り、お 互いの作品の面白さについて発表し合うことを通して鑑 賞を深める。		
表現 デザイン・工芸	16・17 紙の造形  (題材例：切り絵を 生かしたポップア ップカードをつく る)	4 〜 6	・身近な材料としての紙に目を向け、 紙のもつ魅力やその特性を生かして つくる。 ・紙の基本的な加工方法（折る、曲げ る、切る、ちぎる、まるめる、はる、 組む）を理解し、カードの目的に応 じたデザインを考え、表現したいこ とに合わせて様々な質の紙を効果的 に用いて制作する。	各種紙類 カッターナ イフ はさみ 定規 カッティ ングマッ ト インスタン トレタリン グ 接着剤 など	美術への関心・意欲・態度	身近な材料である紙に目を向け、紙についての基本的な 知識や扱い方を理解し、飛び出す、動くなどの仕組みを 工夫してつくる。	A (2) ア, イ, ウ A (3) ア, イ B (1) ア, イ, ウ	
					発想や構想の能力	紙の特性を生かしながら表現方法を工夫し、受け取る人 のことを考えたグリーティングカードのデザインの構想 を練る。		
					創造的な技能	カードの仕組みを工夫し、切り絵のよさを生かしなが ら、表現したいことに合わせて計画的に作品を制作する。		
					鑑賞の能力	自分や友だちの作品から、目的や表現意図を理解し、作 品のよさや仕組みの工夫を感じ取り、気づいたことを発 表するなどして、お互いの考えを共有する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 デザイン・ 工芸	18・19 暮らしや 生活を彩る	4 ～ 8	・身近な空間を飾る意味や目的に関心を示し、見た人や自分が心地よく感じるデザインを考え、魅力的な空間に変わるように自分にふさわしい表現方法を工夫する。	木 紙 布 廃材 加工粘土 マグネット 画びょう 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	身近な空間を飾る意味や目的に関心をもち、心地よく感じられるデザインとは何かということについて考える。	A (2) ア, ウ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	ア 形や色彩、 材料、光 などの性質 や、それら がもたらす 感情を理 解すること。
					発想や構想の能力	身近な空間を、自分にふさわしい方法によって、魅力的に変化させるための表現の構想を練る。		
					創造的な技能	身近な環境をよりよく変化させるための表現方法や、加工技術を工夫するなどして、創造的に表現する。		
					鑑賞の能力	飾るための意味や目的を考えながら、ディスプレイデザインの魅力を感じ取り、自分や他者の作品のよさについて説明し合うなどして鑑賞を深める。		
表現 デザイン・ 工芸	20・21 学校や 地域への発信  (題材例：私たちの 提案「未来の学校 をデザインする」)	4 ～ 8	・身近な自然や環境に目を向け、問題点を探り、解決に向けての新たな提案ができる力を身につける。 ・デザインについて関心を持ち、快適な生活環境についてバリアフリーデザイン (BD) やユニバーサルデザイン (UD) の視点で考える。 ・グループで協力して一つのものをつくり上げる楽しさや、難しさを知り、共同作業を行う姿勢や方法を身につける。	各種材料 用具・工具類 はさみ カッターナイフ 定規 各種接着剤 デジタル機器 (カメラ、ビデオ) P C 関連の 機器 プロジェクタ など	美術への関心・意欲・態度	身近な自然や環境に目を向け、問題点を探り、解決に向けての新たな提案についてお互いに協力して取り組もうとする。	A (2) ア, イ, ウ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ 形や色彩の 特徴などを 基に、対象 のイメージ をとらえる こと。
					発想や構想の能力	バリアフリーデザインやユニバーサルデザインの視点で学校の環境 (施設・設備) について考え、より良く快適に暮らすための工夫や構想を練る。		
					創造的な技能	提案 (プレゼンテーション) に向けて、プランを発表する効果的な方法を考えて制作し、グループで協力して準備を進め発表する。		
					鑑賞の能力	お互いの発表を聞き、発想や構想の工夫を感じ取ったり、提案の内容について批評し合うことで、鑑賞の幅を広げる。		
表現 デザイン・ 工芸	22・23 エコデザイン	4 ～ 8	・身近な環境や材料を見つめ直し、地球環境の保全や自然と人間との調和に配慮したデザインを考え、材料を工夫して表現したり、図や模型などによって提案したりする。	紙 和紙 自然材 廃材 身边材 加工粘土 色鉛筆 水彩絵の具 など	美術への関心・意欲・態度	身近な環境や地球規模の環境問題に興味・関心をもち、よりよく改善するためのアイデアを考える。	A (2) ア, ウ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ 形や色彩の 特徴などを 基に、対象 のイメージ をとらえる こと。
					発想や構想の能力	自然と人間の調和に配慮したエコデザインとは何かを考え、表現の構想を練る。		
					創造的な技能	地球環境の保全や自然と人間との調和のためのエコデザインのアイデアを提案し、図や模型などの作品で表現する。		
					鑑賞の能力	エコデザインについての発表 (プレゼンテーション) を通して、お互いのデザインのよさについて感じ取るとともに、価値意識をもって批評し合う。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
表現 (複合)	24・25 共同制作の 魅力	4 〜 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いよさを認め合いながら共同で制作する楽しさや喜びを味わい、一人ひとりの持ち味を生かして協力する大切さを学ぶ。</li> <li>話し合いの中から主題、材料、方法などについて見通しを立てて計画し、協力しながら制作する。</li> </ul>	大画面用の紙や布地 木材 ベニヤ板 水性ペイント 筆 刷毛 ローラー 塗料容器 ビニールシート など	美術への関心・意欲・態度	一人ひとりの考えを尊重し合い、自らの価値観を基に話し合いながら、思い出に残る作品を制作しようとする。	A (1) ア, イ A (3) ア, イ B (1) ア, イ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
					発想や構想の能力	友だちの作品との関係や制作の分担などを考えながら、思い出に残る表現を発想し、共同で作品としての構想を練る。		
					創造的な技能	共同で表現することの効果を考え、造形上の工夫をしながら制作する。		
					鑑賞の能力	お互いに批評し合いながら、作品の形や色の効果、設置場所との関係などについて考え、共同で制作された作品のよさを味わう。		
鑑賞	26・27 木との対話	1 〜 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの作品に木の特色がどのように生かされているか確かめながら鑑賞し、それぞれのよさや美しさを味わい、作者の意図や表現の工夫について考える。</li> <li>造形材料としての木の魅力や可能性について理解を深める。</li> </ul>	参考資料 図版 作品集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクト ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	木を使った立体作品に関心をもち、造形材料としての木の魅力や可能性に気づく。	B (1) ア, イ	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	それぞれの作品に木の特色がどのように生かされているか確かめたり、どのような思いが込められているか想像したりしながら、立体作品の魅力や味わい、木という素材のよさや可能性について気づいたことや考えたことを説明する。		
鑑賞	28・29 展示に託された メッセージ	1 〜 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示の意図や工夫などを読み取りながら、美術展の魅力やより深く味わい、美術展の企画とう創造活動と社会との関わりについて考える。</li> </ul>	参考資料 図版 作品集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクト ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	展示の意図や工夫などに関心をもって美術展全体を楽しむことができる。	B (1) ア	
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	作品展のテーマや構成に目を向け、展示の意図や工夫を自分なりに感じ取りながら鑑賞する。 展示そのものが創造的な営みであることを理解し、展示を通して社会的な関わりをつくり出していく楽しさを感じ取る。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	30・31 人間と 自然への賛歌	1 〽 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間と自然への賛歌」という観点からルネサンス期の名作にアプローチし、美術が社会を動かしていた時代の芸術家の精神と技術に触れたり、作品に込められた意味や表現の工夫などを読み取ったりする。</li> <li>・ルネサンス期のイタリアと北方の美術を比較し、その違いを考え、それぞれのよさを味わうとともに、作品の内容と大きさの関係にも興味をもつ。</li> </ul>	ルネサンスの美術に関するビデオや、テーマに関連した作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	ルネサンスの美術に現れた時代性や地域的差異、代表的作家の傑出した個性や、作り込まれたイメージに対して興味や関心をもつ。	B(1)ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
鑑賞	32・33・34 色彩の輝き	1 〽 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印象派の追求した光の表現を、モネ、ルノワールの作品を通して味わうとともに、その色彩表現の特色を他との比較で理解する。</li> <li>・印象派が生まれた時代背景や日本美術との関連にも興味をもち、社会的な視野でモネやルノワールの作品をとらえる。</li> </ul>	印象派に関するビデオや、モネ、ルノワールの他作品の資料、ジャポニズム関連の資料など	美術への関心・意欲・態度	印象派が生まれた時代背景や日本美術との関連、革新的な技法などへの興味や関心をもつ。	B(1)ア, ウ	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
鑑賞	35・36・37 時代を映す 美術	1 〽 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術や美術作品と時代や社会との関わりに着目しながら鑑賞するとともに、20世紀美術の概要を理解する。</li> <li>・美術のもつ社会的な役割や意義について理解を深める。</li> </ul>	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクト ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	美術や美術作品と、時代や社会との関わりについて関心をもつ。	B(1)ア	イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。
					発想や構想の能力			
					創造的な技能			
					鑑賞の能力	それぞれの作品が生まれた時代的、社会的背景に目を向けながら鑑賞し、作品のよさや美しさを味わったり、作者の表現意図や工夫などについて考えたりする。 20世紀美術の多様性に気づき、現代社会における人間と美術の関係について考えたことを説明する。		

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	学習の内容（移行措置に対応）	対応する新学習 指導要領の項目	(共通事項)
鑑賞	38・39 アジアの多様な美術	1 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア各地に広がる美術文化や文化遺産をはぐくんできたそれぞれの風土や民族の歴史に関心を持って鑑賞し、その特徴や相違点と共通性に気づき、アジア独自の造形の魅力を味わう。</li> <li>・美術文化を通じた国際理解を深める。</li> </ul>	参考資料 図版 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ など	美術への関心・意欲・態度  発想や構想の能力  創造的な技能  鑑賞の能力	アジアの美術文化や文化遺産について関心をもち、それらを尊重し、国際理解を深めようとする。 身近な生活習慣と美術文化との関係について考える。  形や色、材料やその扱いの工夫などを基に、アジア独自の造形の特徴や魅力を味わい、その美意識や創造的精神などについて理解する。 それぞれの風土や民族の歴史によってはぐくまれてきた美術文化や文化遺産の特徴を読み取り、それぞれの相違点と共通性について気づいたことを発表し合うなどして、美術を通じた国際理解を深める。	B(1)ア、イ、ウ	ア形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。 イ形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

# 年間指導計画の作成について（移行措置を踏まえて）

## ◎年間指導計画作成上の留意点

年間指導計画案を作成するに当たって、留意したいことは以下のとおりです。

- ・学習指導要領における中学校美術の「目標」及び「内容」について理解を深める。
- ・地域や学校の特色、中学校の実態等を把握し、その上で計画案を立案する。
- ・教科書の内容や題材をよく検討し、新しい学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」に配慮する。
- ・個々の生徒が、その特性や持ち味を生かしながら意欲的に学習活動に参加できる、魅力と教育意義に富んだ指導計画案を作成する。

## ◎二期制（二学期制）と三学期制

教育環境を取り巻く大きな流れとして、三学期制から二期制への移行があります。

各学年、各学期の評価・評定に対して、十分な学習活動とその見取りのための時間の確保が困難であるという状況が問題として挙げられています。そのような状況を踏まえ、二期制が一つの有効な手段として実施され始めています。

しかし、これまで三学期制で行われてきた中学校の指導計画を二期制に切り替えるに当たっては、検討しなければならない課題も多くあります。そこで、ここでは年間指導計画を、二期制、三学期制の両方掲載することとしました。

## ◎各学校における年間指導計画作成上の留意点

日文の中学校美術科教科書は、見開き2頁（折込みは3頁）ごとに一つの題材を掲載しています。それぞれの題材は、学校や地域、生徒の実態、指導のねらい等々に応じて多様な取扱いができるように、様々な要素によって構成しました。したがって、一つの題材から幾通りもの展開が可能ですが、年間指導計画案を例示するに当たっては、教科書の題材名をそのまま使用しています。

題材の具体化の過程において、新しい学習指導要領のねらいを踏まえながら、先生方の創意や工夫が大いに発揮され、学校や地域、生徒の実態、指導のねらい、評価計画等に即した、より優れた指導計画が作成されることを願っています。

## ◎日文・中学校「美術」の年間指導計画案例

### ■年間指導計画案の作成に際しての基本的な前提

- (1) 第1学年については、2時間続きの授業時間を確保するために、前期に週2時間を10回〔第1案〕、後期に週2時間を10回〔第2案〕設定する場合、また、年間授業時数を通年して平均化する場合〔第3案〕、の三つの配当例を想定しました。また、第2・3学年については、年間を通した指導上の課題を「A案」と「B案」の2種類想定しました。特に2年生の「B案」は、題材の配列に変化をつけ、多様性を生かしたカリキュラムとしました。また、3年生の「B案」は、独創的な表現力や鑑賞の能力に重点を置き、表現や鑑賞の題材の配列に変化をつけたカリキュラムとなっています。各学校の実状に合わせて時数を配当してください。その場合はそれぞれのカリキュラムを組み合わせるなど、題材を入れ替えることも可能です。単に時間割編成上の都合というだけでなく、美術科の特性を十分に考慮し、生徒の学習効果が

より高まる方法を工夫するとともに、系統的な指導と評価の計画立案が重要となります。

(2) 年間及び各学期、前後期の週数、及び各学年の授業時数（1hは1単位時間を表します。）

### ・二期制の場合

#### 【第1学年】

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計	
前後期に区分	週数	前期18週						後期17週						35週
	〔第1案〕 前期10週2h 他の週1h	28時間						17時間						45時間
	〔第2案〕 後期10週2h 他の週1h	18時間						27時間						45時間
通年平均	週数	18週						17週						35週
	〔第3案〕 通年平均等 (週約1.3h)	23時間						22時間						45時間

#### 【第2・3学年】

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計	
通年	週数	18週						17週						35週
	時間	18時間						17時間						35時間

### ・三学期制の場合

#### 【第1学年】

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計		
前後期に区分	週数	前期18週						後期17週						35週	
	〔第1案〕 前期10週2h 他の週1h	21時間						15時間						9時間	45時間
	〔第2案〕 後期10週2h 他の週1h	13時間						18時間						14時間	45時間
通年平均	週数	13週						13週						9週	35週
	〔第3案〕 通年平均等 (週約1.3h)	16時間						17時間						12時間	45時間

#### 【第2・3学年】

	月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	総計		
通年	週数	13週						13週						9週	35週
	時間	13時間						13時間						9時間	35時間

月	学期	〔第1案〕 前期に週2時間の授業を10回設定する場合			〔第2案〕 後期に週2時間の授業を10回設定する場合			〔第3案〕 年間授業時数を通年して平均化した場合				
		分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間		
4	前期	オ	澄んだ目と心で	1	オ	澄んだ目と心で	1	オ	澄んだ目と心で	1		
		創	つくり出す喜び	3	創	つくり出す喜び	2	創	つくり出す喜び	2		
		創	色との出会い	4	創	色との出会い	2	創	色との出会い	3		
		絵・彫	スケッチの楽しみ	2	絵・彫	スケッチの楽しみ	2	絵・彫	スケッチの楽しみ	2		
		絵・彫	見て、感じて	4	デ・工	自然の形や色を生かして	4	絵・彫	心に残る情景	4		
		デ・工	自然の形や色を生かして	4	鑑	見ることと描くこと	2	絵・彫	見て、感じて	4		
		鑑	絵本は小さな美術館	2	絵・彫	立体に表す楽しみ	5	鑑	絵本は小さな美術館	2		
		デ・工	土と炎の出会い	8				デ・工	土と炎の出会い	5		
		10	後期	デ・工	遊び心のかたち	4	鑑	生活とデザイン	2	鑑	見ることと描くこと	2
		11		デ・工	文字を生かしたデザイン	3	デ・工	文字を生かしたデザイン	3	デ・工	動く絵の楽しさ	3
12	デ・工	文字を生かしたデザイン		3	デ・工	動く絵の楽しさ	4	絵・彫	立体に表す楽しみ	4		
1	絵・彫	心に残る情景		4	絵・彫	版のよさを生かして	6	デ・工	遊び心のかたち	3		
	デ・工	土と炎の出会い		6	デ・工	土と炎の出会い	6		絵・彫	想像の世界へ	3	
2	絵・彫	立体に表す楽しみ		4	絵・彫	心に残る情景	4	デ・工	文字を生かしたデザイン	3		
3	鑑	のこされた造形		2	鑑	のこされた造形	2	鑑	生活とデザイン	2		
					鑑	のこされた造形	2	鑑	のこされた造形	2		

\* 絵・彫→絵・彫刻など デ・工→デザイン・工芸など 鑑→鑑賞 オ→オリエンテーション 分野を横断した題材として 創→創造へのとびら 複→複合的な題材 を示しています。

\* 表紙・裏表紙は、各案ともオリエンテーションまたは関連する題材の時間内に適宜扱うものとしています。

\* 移行措置への対応として、表現題材でも、鑑賞の機会を十分確保する。

月	学期	〔第1案〕 前期に週2時間の授業を10回設定する場合			〔第2案〕 後期に週2時間の授業を10回設定する場合			〔第3案〕 年間授業時数を通年して平均化した場合		
		分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間
4	1 学期	オ	澄んだ目と心で	1	オ	澄んだ目と心で	1	オ	澄んだ目と心で	1
		絵・彫	スケッチの楽しみ	3	創	つくり出す喜び	2	絵・彫	スケッチの楽しみ	2
5		絵・彫	見て、感じて	6	創	色との出会い	4	創	つくり出す喜び	2
6		創	色との出会い	3			創	色との出会い	3	
7		絵・彫	想像の世界へ	6	絵・彫	スケッチの楽しみ	2	絵・彫	版のよさを生かして	6
	鑑	生活とデザイン	2	デ・工	遊び心のかたち	4	鑑	絵本は小さな美術館	2	
9	2 学期	絵・彫	立体に表す楽しみ	4	絵・彫	見て、感じて	6	鑑	生活とデザイン	2
		デ・工	遊び心のかたち	4	絵・彫	版のよさを生かして	6	デ・工	文字を生かしたデザイン	3
10		絵・彫	心に残る情景	4				鑑	見ることと描くこと	2
11		デ・工	自然の形や色を生かして	3				デ・工	土と炎の出会い	5
12		鑑	絵本は小さな美術館	2	鑑	生活とデザイン	2	絵・彫	心に残る情景	4
1	3 学期	絵・彫	立体に表す楽しみ	4	絵・彫	立体に表す楽しみ	4	デ・工	動く絵の楽しさ	3
2		デ・工	動く絵の楽しさ	3	絵・彫	想像の世界へ	3	デ・工	動く絵の楽しさ	3
3		鑑	見ることと描くこと	2	デ・工	文字を生かしたデザイン	3	絵・彫	見て、感じて	4
	鑑	のこされた造形	2	鑑	のこされた造形	2	鑑	のこされた造形	1	

\* 絵・彫→絵・彫刻など デ・工→デザイン・工芸など 鑑→鑑賞 オ→オリエンテーション 分野を横断した題材として 創→創造へのとびら 複→複合的な題材 を示しています。

\* 表紙・裏表紙は、各案ともオリエンテーションまたは関連する題材の時間内に適宜扱うものとしています。

\* 移行措置への対応として、表現題材でも、鑑賞の機会を十分確保する。

A案 (発展性を考え、題材を関連づけて配列した例)、B案 (表現や鑑賞の題材の配列に変化をつけた例)

	二期制の場合 A案			二期制の場合 B案			三学期制の場合 A案			三学期制の場合 B案		
	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間
4	オ	自然の恵みと造形	1	オ	自然の恵みと造形	1	オ	自然の恵みと造形	1	オ	自然の恵みと造形	1
	絵・彫	新鮮な見方で	3	絵・彫	楽しく効果的に表そう	3	絵・彫	多様な表現を求めて	4	絵・彫	息づく空間	4
5	絵・彫	息づく空間	4	絵・彫	息づく空間	4	絵・彫	身近な人を見つめて	4	デ・工	光の表現・光の演出	4
6	絵・彫	多様な表現を求めて	4	デ・工	光の表現・光の演出	4	複	映像表現の広がり	4	絵・彫	楽しく効果的に表そう	4
7	鑑	イメージを届けるデザイン	2	鑑	北斎と遠近法	2	鑑	イメージを届けるデザイン	1	絵・彫	新鮮な見方で	4
	デ・工	伝えよう大切なこと	4	絵・彫	身近な人を見つめて	4	絵・彫	超現実的な世界	5	絵・彫	多様な表現を求めて	4
10	鑑	現代に生きる伝統 —工芸の美—	1	鑑	現代に生きる伝統 —工芸の美—	2	デ・工	光の表現・光の演出	4	デ・工	だれもが快適なデザイン	3
11	鑑	日本絵画の造形美	1	デ・工	手づくりの楽しみ	4	鑑	現代に生きる伝統 —工芸の美—	2	鑑	北斎と遠近法	2
12	絵・彫	楽しく効果的に表そう	3	絵・彫	新鮮な見方で	4	鑑	日本絵画の造形美	1	鑑	現代に生きる伝統 —工芸の美—	1
	デ・工	だれもが快適なデザイン	4	鑑	日本絵画の造形美	1	デ・工	伝えよう大切なこと	4	鑑	日本絵画の造形美	2
1	デ・工	手づくりの楽しみ	4	絵・彫	超現実的な世界	4	絵・彫	楽しく効果的に表そう	3	デ・工	手づくりの楽しみ	4
2	複	映像表現の広がり	2	鑑	日本の美術と世界	2	鑑	日本の美術と世界	2	複	映像表現の広がり	2
3	鑑	日本の美術と世界	2	鑑	日本の美術と世界	2	鑑	日本の美術と世界	2	鑑	日本の美術と世界	1

\* 絵・彫→絵・彫刻など デ・工→デザイン・工芸など 鑑→鑑賞 オ→オリエンテーション 分野を横断した題材として 創→創造へのとびら 複→複合的な題材 を示しています。

\* 表紙・裏表紙は、各案ともオリエンテーションまたは関連する題材の時間内に適宜扱うものとしています。

A案 (発展性を考え、題材を関連づけて配列した例)、B案 (表現や鑑賞の題材の配列に変化をつけた例)

	二期制の場合 A案			二期制の場合 B案			三学期制の場合 A案			三学期制の場合 B案		
	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間	分野	題材名	時間
4	オ	自然との共生	1	オ	自然との共生	1	オ	自然との共生	1	オ	自然との共生	1
	鑑	色彩の輝き	1	絵・彫	主張する美術	4	絵・彫	環境と響き合う造形	4	絵・彫	流れる時をとらえて	4
5	デ・工	見え方の不思議	4				デ・工	暮らしや生活を彩る	4	デ・工	学校や地域への発信	4
6	絵・彫	気持ちの形・思いの色	5	デ・工	学校や地域への発信	5	絵・彫	主張する美術	4	鑑	木との対話	2
7				鑑	木との対話	2				鑑	展示に託されたメッセージ	1
9	鑑	展示に託されたメッセージ	1	鑑	人間と自然への賛歌	2	鑑	アジアの多様な美術	2	鑑	展示に託されたメッセージ	1
	鑑	アジアの多様な美術	2	鑑	人間と自然への賛歌	2	鑑	アジアの多様な美術	2	鑑	色彩の輝き	1
	デ・工	暮らしや生活を彩る	4	絵・彫	流れる時をとらえて	4	絵・彫	自分らしさを見つけて	6	絵・彫	主張する美術	4
10	絵・彫	自分らしさを見つけて	4	絵・彫	環境と響き合う造形	4						
11	デ・工	エコデザイン	4	デ・工	紙の造形	4	デ・工	見え方の不思議	4	デ・工	エコデザイン	4
12	鑑	人間と自然への賛歌	1	複	共同制作の魅力	6	鑑	色彩の輝き	1	デ・工	紙の造形	4
1	デ・工	学校や地域への発信	6				絵・彫	気持ちの形・思いの色	3	複	共同制作の魅力	6
2				鑑	アジアの多様な美術	2	デ・工	学校や地域への発信	4	鑑	アジアの多様な美術	2
3	鑑	時代を映す美術	2	鑑	時代を映す美術	1	鑑	時代を映す美術	2	鑑	時代を映す美術	1

\* 絵・彫→絵・彫刻など デ・工→デザイン・工芸など 鑑→鑑賞 オ→オリエンテーション 分野を横断した題材として 創→創造へのとびら 複→複合的な題材 を示しています。

\* 表紙・裏表紙は、各案ともオリエンテーションまたは関連する題材の時間内に適宜扱うものとしています。

# 新学習指導要領・各学年の目標及び内容の系統表

第1	目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。		
第2 各 学 年 の 目 標 及 び 内 容	1 目 標	[第1学年]	[第2学年及び第3学年]	
		(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。	(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。	
		(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。	(2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。	
			(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。	(3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
	2 A 内 容 表 現	(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。	(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。	
		ア 対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出すこと。	ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。	
		イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。	イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること。	
		(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。	(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。	
		ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。	ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。	
	イ 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。	イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。		

第2 各学年の 目標及び 内容	A 表現	ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから美しさなどを考え、表現の構想を練ること。	ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。
		(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。	(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。
		ア 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。	ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。
		イ 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現すること。	イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表現すること。
	B 鑑賞	(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。	(1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。
		ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。	ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。
		イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高めること。	イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。
			ウ 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。
	〔共通事項〕	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
		ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。	ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
		イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。	イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。